

Lend a Hand 一手を貸そう



2003-2004年国際ロータリーテーマを実行しよう



「人生の尺度」

国際ロータリー第2650地区

2003～2004年度 ガバナー 福井正典

薫風のことを「秘色ひそくの風」と表現することがあります。五月の風は、若葉や花の匂いを運んでくるので、色さえ秘められているように思えるからでしょう。

四つ辻で一旦停止する

親愛なる会長、幹事の皆様、五月晴れの薫風かおる中、ご壮健にて、クラブライフをエンジョイされておられることと期待します。

いよいよ5月22日～26日、京都・大阪での国際大会の月となりました。

今日まで、ホスト地区のクラブとして参加推進にご協力、ご支援を賜り、2005年のロータリー創立100周年の記念すべき記念大会を盛り上げる前年の大会として歴史に残る大阪大会の大成功を期待申し上げ、より一層のご協力をお願いします。

四つ辻にきたら、「四つのテスト」をものさしにしよう。言行は、これに照らして

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか

を言行の判断基準にしよう。なにかをしようとする時、四つのテストに照らして、確かめるという習慣をつけることによって、より一層幸福になり、またあらゆることに成功を納める事ができると信じよう。

さて、四つのテストの前文の「言行はこれに照らしてから」ですが、原作者テラーさんは、心の中の考えこそ、一番大切であると解説しておられます。心の中の考えが正しければ、外に現れる言葉も行為も正しくなると言われています。邪心を持ちながらいくら言葉、行動が立派でも、それは偽善というものであると考えます。「言行はこれに照らしてから」ということはやはり、大切なのは心の中で考えること、心の持ち方であると考えます。

フォア・ウェイとは四つ辻であると、解釈されています。四つ辻にたどり着いた時に、右に行くのが正しいか、あるいは左にすべきかと、一旦停止をして進路を考えることであると、このフォア・ウェイテストを解釈することができます。すべて物事は、吟味して悪しきを捨て去り、善を身につけることが大切です。人間は心の中に思うことが行為となって表れるものです。「四つ辻に来た時に、立ち止まって、どの道が正しく、どちらが間違った道であるかを考える」常に四つのテストをものさしとして日常生活を明るく、楽しく過ごしましょう。

常に四つのテストを人生の尺度としましょう。

お願い

◇ 7月 識字率向上月間についてクラブに注意を促しましょう。

◇ ロータリー財団への寄付がその年度の目標を加えられる為には、6月30日必着であります。もう一度頑張り財団も米山もやりましょう。

◇ クラブ会長、幹事さん 年度の終わりに近づいております。

奉仕活動、行事、運営管理その仕事の全ての分野にわたり、仕上げを致しましょう。

以上、の実現に、お1人おひとりの「手を貸そう」ではありませんか。



手をつないでアジア文明圏を

パストガバナー
津田 佐兵衛 (京都西RC)

福井ガバナーの年度も終わりに近づきましたが、本年の運営で特に感じた事は、ガバナーが充分な指導力を発揮された事は勿論ですが多くの兄弟クラブの皆さんが大きな輪を作ってガバナー事務所を囲み、ガバナー補佐と共に文字通り手を貸して下さった事が大きな成功をもたらしました。何はともあれ良い一年を過ごされました事をお喜び申し上げます。

ロータリーが世界社会奉仕に関連したウィサーブを行うには、今までとは少し考え方を変える必要があると思います。

世界は国家に分かれて政治と経済でお互いにせめぎ合っています。しかしそれでも欧州連合 (EU) が 25ヶ国に拡大し経済交流が行われることになりました。又アジアではバンコックで設立された東南アジア諸国連合はすでに 10ヶ国同盟として活躍しています。又昨年暮れに東京で開催された ASEAN と日本の特別首脳会議では「東アジア共同体」構想が提起されました。政治、経済の利己的な打算を根底とした地域連合の活動ですら世界平和に貢献出来るのですが、それなら創立 100 年を迎えたロータリーは世界平和のために何を心がければよいのでしょうか。

今世界には 8 ツの文明があるといわれています。西洋文明、儒教文明、イスラム文明、ラテンアメリカ文明、ヒンズー文明、アフリカ文明、そしてその何れにも属さない日本文明があります。世界平和を守るためには日本は先ず儒教文明圏と手を結び中国、台湾、フィリピン、韓国等とロータリーの友情を育て、ロー

タリアン同士で平和強調を計ることから始めるべきではないでしょうか。

日本の文明には他の文明とは対立せず、平和に受け入れる寛容さがあります。その特性を生かしてお互いの文化文明を尊重しロータリーの奉仕の理想を語り合えるような東亜の文明圏を作り、将来西洋文明との対立を避け、世界平和に導くことこそ日本のロータリアンの使命ではないでしょうか。



手を貸そう

パストガバナー
中野重宏 (奈良RC)

今更申し上げるまでもない事ですが、ロータリークラブとは「奉仕」を志す人々の集まりであり、我々は自分自身の職業生活また日常生活に於ける行動に道徳的倫理観を保持し、慈愛の心を持って手を差し伸べる事を強調された極めて明快なテーマであったと思います。

改めて「奉仕」という言葉の概念を考えて見ようと思ったのは、米山梅吉氏が日本でのロータリークラブを創設、その精神的基盤としての“SERVICE”という言葉が「日本語に訳するのは大変難しい」と暫くは「さーびす」「サービス」と仮名書きで使用されていた事実からです。今もってこの「サービス」という言葉は安易な使われ方をしていて、誤解を招いている所もあり、辞典を引きました。①奉仕の行為 ②貢献、骨折 ③公共機関の施設と運転 ④公務、軍役、その他多くの意味がありますが、私自身の勝手な解釈で「奉仕」には自発的な行動というより、かなり責任義務があるのではないかと思えました。

同じ漢字圏である台湾のロータリーでは「服務」と訳されていて、このような視点から言えば“SERVICE”のもつ意味をよく表現しているように思います。

因みに、前号月信で千玄室大阪国際大会実行委員長がお書きの「REACH OUT」のテーマは台湾では「推己及人」、本年のは「伸出援手」となっており、正しく手を差し伸べようです。

話は飛びますが、当地区情報委員会は昨年度「新入会員の為のオリエンテーション」という小冊子を淵上勝夫委員長始め委員の協力

で作成され、大変好評で全国的に頒布希望が参ったようです。本年度は更にもう少しキャリアを経た中堅会員の為の「今さら人に聞けないロータリー情報マニュアル」という面白いタイトルの冊子を完成されました。内容はかなり濃く、読みづらい諸文献を平易にしたような感じです。ロータリー情報の徹底こそ会員をロータリアンに成長、脱皮させる必要条件であり、この2労作を大いに活用して頂くようPRさせていただきます。



手を貸そう

パストガバナー
本田 茂 (京都北RC)

ジョナサン・B. マジリアベ RI 会長が「手を貸そう」のテーマを掲げられてから一年が経過した。これがどの様に受け取られ実行された？少し考えてみたい。マジリアベ会長はテーマに対して解説しておられる。もう一度読んで戴きたい。

「私たちは個人的な援助を一心に行い、慈愛を分かち合えることを喜び合うのです。一致協力して助けを必要としている人々をいつでも援助する心構えを持つ事で一人の手が幾多の援助の手となり、ロータリーの援助の手でどんな困難な事でも達成出来るのだという事を銘記する事にある。」

要するに一人ひとりのロータリアンがいつでも援助の手を差し伸べる心構えを持ち、それが結集すればどんな困難な事でも達成し、共に喜びを分かち合えるとおっしゃっている。最も判りやすい“I”と“We”の基本的奉仕の奨励である。ロータリアン個人においても「手を貸しておられる事例も多く見聞するし、あの悲惨な阪神大震災には企業や組織を挙げて、物心両面で援助の手を差し伸べ、復興なった今、友愛の喜びを分かち合った人々も多い事と思う。只今のロータリーは、組織をあげてポリオの撲滅に取り組んでいる。恐らくマジリアベ会長の頭には来年に迫った創立 100 周年を迎え、宣言した地球上からのポリオ撲滅が頭にこびりついているのであろう。「どんな困難な事でも」と会長は訴えている。全組織あげての「手を貸そう」を期待してやまない。

最後にロータリアンの心構えについて少し

ふれたい。最近開催されたロータリーの会合で千玄室元 R.I. 理事が講話の中で「貴方はロータリアンですか？」「それともただ単なるクラブメンバーですか？」と問いかけられた。私はこの言葉が今も頭から離れない。同じエンブレムをつけていてもえらい違いである。前者はロータリーを素直に見つめ、奉仕の実践と連動して自己価値の構築をはかりつつ真っ正面からロータリーの道を歩んで行く人である。後者は道草をしないで早く道に戻り皆と手をつないで力強く歩むべきである。

ロータリーも近頃はかなり多様化し、稍もすれば基本理念がかすむ事もあるだろう。しっかりつかんで放さない事が肝要である。



手を貸そう

パストガバナー
坂部慶夫 (京都洛中RC)

歴代の国際ロータリー会長のテーマを見ると簡潔にして要を得たものが多くあります。その時々時代の背景を取り入れ、ロータリーの歩みに対して示唆を与えようとするものも散見され、また、哲学的思想に裏打ちされたものも見られます。今年度のマジアベ会長の「手を貸そう」も単純、簡潔なようでありながら、深い崇高な思想に満ち、その実践を迫られているように感じられます。特に前年度のラタクル会長の「慈愛の種を播きましょう」との関連において、その主旨の継続性に注目すると、一層、その意義は深いように思われます。私達はロータリアンとして、どれだけ日常生活において隣人に、地域に、国に、世界に、そして何よりも家庭に手を貸して来たかを謙虚に考える必要があります。人間は弱いもので、他を省みるといいながら、自分第一、自己本位なものです。他に手を貸すという言動の中にさえ自分の利益、名誉といったものが隠されている場合があるのではないのでしょうか？ロータリーの第一のテーマ、「超我の奉仕」が強調される理由でありましょう。テロリストと呼ばれる人々には、善意とか愛というようなことが通じないのかも知れませんが、イラクで日本人を拘束した時、日本に対しての声明の中に、「嘗て我々は日本に対して敵意を抱いたことはなかった」とか「我々は友情を失いたくない」とも云っていて、何か救われたような気がしたものでした。これは明治以来、私達の先輩が残してきた、中東、アジアにおける善意が多少とも影響していると考

えるのは、私の考えが甘いのでしょうか？極東の小国、資源の乏しい国が、その資質と勤勉によって僅かの期間に世界の一流国になったことへの敬愛の念、太平洋戦争が結果的にアジアの解放につながったことも、彼等、テロリスト達にも影響を与えているのかも知れませんが。日頃から絶え間のない国際奉仕が必要とされる理由でもありましょう。

自分のことに触れて恐縮ですが、ガバナーの時に、フィリピンのパナイ島で給水事業を行った時、町の長老が私の手を握って「日本は以前、私達を殺しにやって来たが、今回は友情を持って来てくれた」と云ってくれたこと、モンゴルのウランバートルでポリオワクチン投与をした時に、小児を抱いた母親が「これで子供達がポリオに罹らなくなります。他の母親達も感謝しています」と云った言葉が今も私の耳を離れないのです。



手を貸そう

パストガバナー
山田 三郎 (亀岡RC)

1905年2月23日にポールハリスに因って創立されたロータリーが、多くのロータリアンの努力と研鑽に因って、幾多の変遷を経ながら、世界に比類無き発展を遂げて来た。

1911年、6年目を迎えたロータリーは、確固たる理念と概念を求めて激論の末第一標語として「無私の奉仕」が採択された。同時に、AFシェルドンの「He Profits Most Who Serves Best」の（最も良く奉仕する者、最も多く報われる。）と素晴らしい提案がなされた。その当時のロータリアンの情熱が彷彿として思い起こされる。

無私に徹する事が出来るのか。が大きな議論の対象となったようである。そして今日の「超我の奉仕」となる。

その後、He Profitsは、余りに資本主義的で功利的であるから、モットーとして禁止すべきと強い提案がなされ、賛否激論の末、各クラブの自由裁量に任される事となった。

1935年マニラ大会に於いて、ポールハリスはこの問題について「He Profitsはドルでもセントでもなく」「人生のSomething」であると強く述べたと言う。ロータリーを創設して30年を経たポールハリスが到達した「人生のSomething」とは何だったのか。

15世紀の末イスパニアが、海洋探検に大活躍をした頃、イスパニアの貨幣に「Plus Ultra」（プラス アルトラ）と強く刻み込まれていたと言う。「Plus Ultra」とは（その向こうに、未だ何かある。）と希望を持って死を覚悟し乍ら、新大陸を求めて大洋に漕ぎ出して行った。ガ

リレオガリレーが地動説を強調して、宗教裁判にかけられると言う時代の事である。

ポールハリスが言った「人生のSomething」も「Plus Ultra」（その向こうに、未だ何かある。）と言う希望を持ち乍ら、奉仕の理想に向かって、限り無き研鑽を積む事こそ、100周年を迎えるロータリアンに求められている最も重要な事のように思われる。

国際協議会(アナハイム)を終えて

第2650地区 ガバナーエレクト 神谷保男(敦賀RC)

期待と不安の思いを抱いて、2月15日～22日に行われた国際協議会に参加しました。アナハイム・ヒルトンホテルは、客室数1000余の大きなホテルで、本会議と食事は2階、グループ討議は4階の小部屋で17名づつに分かれて行われました。世界529地区のガバナーエレクトと配偶者が一堂に集まるわけで、約1000名の方が同時に食事をする大ホールや本会議の眺めは壮観でした。



本会議は全員が集まって計10回、グループ討論は計16回ありました。本会議で講演された人は、グレン・エステス会長エレクト、マジアベ会長、ラタクル前会長、レイシー財団管理委員長など9名の方が1時間余り話をされました。全て同時通訳をヘッドホンを通して聴いておりました。

食事は166カ国の人達がセルフサービスで食事を持って来て、10人掛け位の丸テーブルに自由に座りますから、外国人と隣り合わすことが多く、小さなプレゼントやメダルの交換でポケットはすぐに一杯になります。外国の女性ガバナーもいて、配偶者の旦那さんが鞆を持ってお供しているのも微笑ましい情景でした。毎朝カリフォルニア米の白い御飯とわかめの味噌汁があったので有難かったし、外国人にも味噌汁ファンがかなりいることを知りました。

夜も晩餐会やダンスの夕べ、各国の自作自演の踊りがあつたりで、着替えのために走り回りました。

4日目の午後自由時間があり、日本人だけまとまって買物、ハリウッド見学に行きました。国際協議会を終えて見ると「思い出は常に美わし」の言葉通り、つらかったのは忘れ、ガバナーエレクト同志の友情が出来たことは貴重な収穫でした。

RI会長のお話の内容については、月信第1号(7月発行)に掲載いたします。

京都南RC創立50周年記念式典・祝宴を終えて

京都南RC第51代会長 西村 七兵衛
広報委員会委員長 中村 俊次



2004年3月11日、京都南RCは栄えある創立50周年の記念日を迎える事が出来ました。スポンサークラブの京都RC様には心より感謝を申し上げ、又チャーターメンバー始め歴代会長、諸先輩の熱意、ご努力又RI第2650地区の皆様のご厚情の賜物であると思っております。



式典・祝宴にはお忙しい中、京都府知事代理、京都市長始め福井正典RI2650地区ガバナー、村田純一京都商工会議所会頭、内田昌一京都経済同友会代表幹事、千玄室RI元理事、小谷隆一RI元理事、RI2650地区ガバナー補佐、歴代パストガバナー、京都府内40RC会長、幹事の皆様、姉妹クラブの台北南RC、タイ国トンプリRC、青森RC、友好クラブ小田原RCの会長、会員並びにご家族、地区内外のロータリアンとご家族の皆様のご臨席を賜り、記念式典を開催。京都市少年合唱団のオープニング、京都南RC50年の歩みのビデオ上映で幕を開け、パストガバナーであります西村二郎記念委員会委員長が開会を告げ、西村七兵衛会長の挨拶、ご来賓の祝辞と式典は粛々と進行し、予定時刻に終える事が出来ました。

引き続き祝宴が開催され、ご来賓の皆様又各RC会長幹事の皆様との懇親があちらこちらで見受けられ、五花街の芸舞妓をはさんでの写真撮影と終始なごやかな楽しい一時を過ごすことが出来、はなやかな盛り上がりとなりました。ご臨席いただきました多くの皆様に心からの御礼と感謝をこめて、ロータリーソング「手に手つないで」で閉宴をいたしました。

京都南RC 50周年記念事業

- 1) 建築家安藤忠雄氏を招いて「可能性を探る」と題しての講演。一般市民700名が参加。
- 2) 元初音中学校跡地の芝生化に対する散水設備の設置。(台北RC、トンプリRCとの共同事業)
- 3) 京都万華鏡ミュージアム開設に対する協力
- 4) 2003年12月、ミャンマーの地を訪問しポリオ撲滅活動の実施、ポリオワクチン投与を行う。

国際大会ご参加の皆様へ

いよいよ国際大会（関西）が開催される月になりました。登録者数も国内外を合わせてお陰さまで4万人を突破し、皆さまのご協力があってこそその結果であります。本当に有難うございました。さて、ご来場に際してのご留意事項です。

●コンGRESバッグ受取り

5月初旬にRIから届いた「登録封筒」に“HOST BAG VOUCHER”（バッグ引換券）、が入っていますので、大阪ドームでお受け取りください。

・受取り期間 5月23日（日）12:30～15:00 5月24日（月）08:30～13:00
 5月25日（火）08:30～13:00 5月26日（水）08:30～13:00

- *大阪ドームでお受け取りになるものは、
1. コンGRESバッグ（ホスト記念品袋）
 2. ネームバッジ入れ（首にかけるもの）
 3. 大会プログラム

●当日登録は下記の時間帯で両会場で行なわれます。

	大阪ドーム	大阪国際会議場 5F メインホワイエ
5月21日（金）		08:00～18:00
5月22日（土）		08:00～20:00
5月23日（日）	08:00～17:00	08:00～17:00
5月24日（月）	08:30～13:00	08:00～18:00
5月25日（火）	08:30～13:00	08:00～18:00
5月26日（水）	08:30～13:00	08:00～13:00

*信任状の査証提出先も両会場となっております。

●チケットイベント

・ホスト主催イベントのチケットは、実行委員会事務局へクラブ単位でお申込頂いた方へは、申込書に明記された送付先へ順次、郵送いたします。

・RI主催のチケットは、RIからの「登録封筒」に同封されています。

国際大会（関西）でお会いしましょう！

地区内各クラブ事業報告

「ロータリーの森清掃」 大津西ロータリクラブ 社会奉仕委員長 篠宮 寛
 雑誌・広報委員長 竹端 貞夫



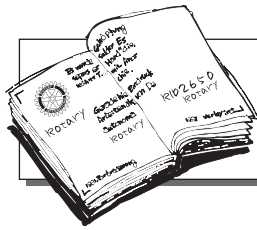
我クラブではみどりの日制定記念植樹として、仰木西公園に大津市内四クラブ合同で1989年4月に桜の木の植栽を行い、その後毎年桜の開花時期に公園の清掃を継続事業として行っております。

今年度の清掃作業は、落ち葉等も多く、快晴で天気も良かったせいか会員汗だくで頑張りました。

作業も終え充実感を実感しながら汗をぬぐい、心と廻りを見渡すと身障者の方々の散策、ご婦人の方のテニス、入学式を終えた学生が楽しそうに花を見ながら微笑んでいる姿をみて、「これからもこの気持ちを大切に持ち続けよう」と心あたたまる一日でした。

実施日／平成16年4月8日（木） 参加数／21名

※これについてBBCで放映又、毎日新聞朝刊（地域ニュース）で取り上げて頂きました。



文庫通信 (200号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50 周年記念事業の一つとして 1970 年に設立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1 万 9 千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会「シンポジウム・パネルディスカッション」から

- ◎ 「教育」 藤川享胤(コーディネーター) (D.2560) 2003 8P
- ◎ 「ふる里の水をきれいにするために」 永幡幸司(コーディネーター)
(D.2530) 2003 11P
- ◎ 「2025 年 日本は? 世界は?」 中山太郎(コーディネーター)
(D.2640) [2003] 19P
- ◎ 「韓日間の親善を図るための課題」 朴鉉奎 <D.3640PG> (D.2810) [2003] 2P
- ◎ 「日韓ロータリーの現状と将来」 菅原周一 <D.2810PG> (D.2810) [2003] 2P
- ◎ 「韓日間の親善を図るための課題」 菅野多利雄 <元 R I 理事>
(D.2810) [2003] 1P
- ◎ 「過去の山頂は未来の丘」 豊島徳三(モデレーター) D.2760 2004 6P
- ◎ 「壊れてきた日本ーロータリアンは教育問題にどう取り組むかー」
青山貫禪(コーディネーター) (D.2630) 2004 23P
- ◎ 「心の危機を考える」 小林正信(D.2600) 2004 15P

[上記申込先: ロータリー文庫 (コピー)]

ロータリー文庫

〒 105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 abc 会館 7F
 TEL (03)3433-6456 FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
 開館=午前 10 時~午後 5 時 休館=土・日・祝祭日

